

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語科】

#### 1. 対象

中学2年生を対象とした授業を構想する。学習に対して意欲的な生徒が非常に多く、全体的に見ると学力も高いが、一方で学力面で心配な生徒も各学級に数人いる。授業では、音読や創作などの活動に楽しんで取り組もうとする雰囲気があり、ゲーム感覚で行える音読方法などを用いると、繰り返し音読することを楽しむ姿が見られた。また、発表に慣れている生徒は、その考えに至る根拠も交えて分かりやすく語るができるが、語彙力がまだ十分に付いていない生徒も一定数いるため、語彙力の向上も課題の一つである。本単元では古典を取り扱うが、歴史的仮名遣いや意味の取りにくい本文から苦手意識のある生徒も少なくない。また、古典をあくまで昔の作品であり、自分とは遠い存在のものとして捉えている生徒も多い。

#### 2. 単元名 「随筆の味わい—枕草子・徒然草—」（全8時間）

#### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。
思考力, 判断力, 表現力等	文章を読んで理解したことや考えたことを経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
学びに向かう力, 人間性等	我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

#### 4. 授業展開【 本時 ・ ① 単元 】

解決したい課題や問い
・昔の日本人と現代の私たちとの共通点はあるのだろうか。 ・現代版「徒然草」を創るとどのような作品になるだろう。

考えるための材料
○徒然草 各段の内容を示したワークシート（出典 ビギナーズクラシックス徒然草 角川書店） ・第七十三段…世の中に伝わる話はそのままでと受けないためか嘘で固めてあることが多い。 ・第八十五段…たとえ本心からでなくても立派な人を真似ようとする人は立派になっていく。 ・第九十二段…二本の矢があると後の矢をあてにしていまいかげんな気持ちが出てしまう。 ・第百九段…失敗というものは、必ず油断したところで起こるものである。 ○仁和寺にある法師の内容説明と現代版「仁和寺にある法師」を例として示したワークシート
想定される活動
各段に書かれた内容を読み取った生徒が、グループで話の内容を伝達する。グループでどの段を扱うかを決め、その説話について、「現代版」を創作する。グループ内で別の章段を担当することで、生徒にその後の活動の選択肢ができ、多くの対話が生まれることが想定される。また、例示のワークシートの提示により、活動内容が明確になることで、個の読み取りにおいても充実した活動ができることが想定される。

## 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

【対話の方法】 グループ活動は4人1組の形で行う。基本的には、個→グループ→全体の形で実践する。

### 【対話や思考のプロセス】

▶それぞれの章段を現代版にするとどのような話になるだろう。▶第七十三段は今の世の中のことを書いているような内容だね。フェイクニュースとか、マスコミに関連する話が創れそう。▶第八十五段は少し難しい話のように感じる。立派な人を真似ていくことが大事ということかな。▶自分が悪いことをしているのに、なんとなくいい人には嫉妬してしまったり、うらやましく思ったりするということがないかな。▶この木登り名人の話はわかりやすいね。私も部活動で油断して失敗しちゃったことがあるからよくわかる。▶蹴鞠が例として挙げられているから、スポーツの話で現代版が創れそう。サッカーがいいかな。▶油断するのがよくないということだから勉強に関連する話にしてもいいかもしれないね。▶それだと、第百九段でも当てはまりそうだね。▶二本矢があると初めの矢にいいかげんな気持ちが出るって本当にそうかなあ。▶自分でも気づかないうちになって書いてあるから無意識のうちに怠け心が出てしまうってことじゃないかな。▶確かにチャンスが2回あると、最初失敗してもまあいいかも1回あるし、と思いがちかもしれないね。▶僕はテニス部でサーブ2本打てるから、まあ確かに2本あることの油断はあるかもしれない。でも1本目に挑戦ができるという意味ではいいのかもしれない。▶じゃあそのテニス部での体験談をふまえて現代版にしてみようか。▶同級生が読んでいておもしろいと感じる現代版にできるといいな。

## 学習の成果（予想される子供のあらわれ）

### 〔振り返りシート〕

- ・平安時代や鎌倉時代の話はあくまで昔の話だと思っていたけれど、現代にも通じる話がたくさんあり、昔も今も変わらない部分があると感じた。
- ・古典は難しい話のイメージだったけど、今回学習した話はなんとなく分かる、納得できると思えるような身近な内容だった。
- ・鎌倉時代のことで、現代人にとって頷ける箇所が多く、古典を読むおもしろさがわかった。